

令和4年度

鹿児島県N I E 実践報告書



鹿児島県N I E 推進協議会

目 次

• N I E 実践報告	鹿児島市立向陽小学校……	2
• N I E 実践報告	枕崎市立枕崎小学校……	6
• N I E 実践報告	いちき串木野市立荒川小学校……	9
• N I E 実践報告	霧島市立青葉小学校……	1 3
• N I E 実践報告	鹿屋市立笠野原小学校……	1 7
• N I E 実践報告	薩摩川内市立平成中学校……	2 1
• N I E 実践報告	始良市立山田中学校……	2 5
• N I E 実践報告	奄美市立朝日中学校……	2 9
• N I E 実践報告	鹿児島県立錦江湾高校……	3 3
• N I E 実践報告	鹿児島県立野田女子高校……	3 7
• N I E 実践報告	鹿児島県立楠隼高校……	4 1
• N I E 実践報告	れいめい中学校・高等学校……	4 4
• N I E 実践報告	鹿児島県立鹿児島聾学校……	4 8
• 鹿児島県N I E 推進協議会会則		…… 5 2

令和4年度 N I E 実践報告

鹿児島市立向陽小学校

1 はじめに

本校は、令和元年度から3年間、「語彙力・書く力」（表現力）を培うための国語指導～主体的な学びを目指した授業づくりの工夫と、語彙力の活用を通して～」という校内研修テーマを設定し、研修を深めてきた。この研究を進める中で、授業で学習したことを生活の中で活用したり、児童の語彙力を増やしたりするためには、新聞を学習に活用することが有効であると考え、N I E の取組を令和3年度から行っている。

N I E 実践校指定を受けた今年度は、新聞にふれる機会を増やし、自分が感じたことを文章で表現できることを目標に、新聞を活用した様々な取組を行うことができた。

2 本校N I E 教育の目標

新聞に慣れ親しみ、「書く」活動に活かす

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

新聞記事を読み、自分の思いや考えを簡単な文章で表現することができる。

高学年・・・新聞の読み方が分かり、興味関心のある記事を選択することができる。

記事の内容を自分の経験や体験と比べながら読み、記事に対する思いや考えを書くことができる。

3 実践内容

- (1) 新聞コーナーの設置
- (2) 新聞を活用した校内研修
- (3) 新聞を活用した家庭学習や家庭との連携

4 研究の実際

- (1) 新聞コーナーの設置

各学年廊下に「新聞コーナー」を設け、児童が新聞に親しめるようにしている。

【低学年】

低学年は、クイズや漫画コーナーなどの記事を中心に、児童が興味を持ちそうな記事を選んで掲示した。漢字にふりがながついているとはいえ、低学年が自分で文字や文章を読める記事が少ないので、1年部と2年部で連携して記事を精選し、お互いの記事を入れ替えながら掲示した。

休み時間に友達と記事を読んだり、クイズに答えたりする様子が多く見られた。自分が知っていることや経験していることが記事にあると、喜んで見ている様子があった。

【低学年の様子】



【中学年】

色々なことに興味が増す中学年にあった内容になるように、生き物や環境問題、俳句の入賞作品など、多岐にわたる内容を掲示した。児童が興味を持つように、教師がコメントや吹き出しを入れたり、注目して欲しい本文に線を引いたりした。

児童が新聞に触れられる機会を増やすために、児童の目線や動線を意識した設置場所にすることで、子供たちが記事に興味を持つことが増えた。



【高学年】

5年生は主に、学習(社会科・総合的な学習の時間)と関連した記事に触れさせたいという教師の思いから、朝日小学生新聞の特集コーナー「都道府県さんぽ」・「紹介します」を活用した。社会科で学習した内容や、自分がまだ知らなかった職業について詳しく知ることができ、学習したことをさらに深めている姿が見られた。また、記事

から理解したことを友達や担任に教えたり、クイズで出し合ったりする姿も見られた。

6年生は、児童が選んだ記事を学年の踊り場に掲示するようにした。選んだ記事の横に選んだ児童名も一緒に掲示し、選者の紹介もしている。児童が選んだ記事なので、感想を共有しやすいようで、新聞に触れる機会が増えた。



(2) 新聞を活用した校内研修

本校のテーマ研修に対する児童の実態調査に南日本新聞社のホームページよりダウンロードしたワークシートを活用し、取り組ませた。5月と11月に同じワークシートで調査をし、実態の把握や研修成果の分析に役立てた。



また、各学年部の新聞コーナー設置は、校内研修での環境設営班に中心となって活動してもらい、記事集めや設営なども校内研修の時間や長期休業中などに行えるようにした。

(3) 新聞を活用した家庭学習

4年生以上では、家庭学習にも新聞を積極的に取り入れた。この取組は、令和3年度から取り組んでおり、2年目となる。4・5年生は「天声こども語」(朝日小学生新聞)や「若い目」(南日本新聞)の視写や簡単な感想記入に、6年生は、「天声こども語」の記事に対する自分の考えを二百字程度で書くという内容である。また、6年生は「回し読み新聞」にも取組、自分の思いを文章で表現したり、友達の考えを受け止めコメントを書く活動を行ったりした。

家庭学習で取り組んだ児童の感想や日記、詩、俳句などは南日本新聞への投稿を行い、新聞に掲載された作品は校長室前廊下へ掲示を行っている。



5 成果と課題

成果

- ・ 児童が新聞や新聞記事を身近に感じられるようになった。また、記事について友達同士で話をする機会も多く見られ、政治・環境・スポーツ・郷土等これまではあまり興味を示さなかった話題にも関心を持っていた。
- ・ 家庭学習で継続して新聞を読む機会を設けることで、活字に対する苦手意識が少なくなってきた。また、感想文章が表現豊かになってきている。
- ・ これまで知らなかった言葉と出会うができ、児童の語彙が広がっていることを感じる。また、普段のノート記述にも新しい言葉を進んで活用したり、より分かりやすい表現を生み出したりしようという姿が見られるようになってきている。
- ・ 校内研修や家庭学習の中で新聞活用を図ることで、教師も楽しみながら実践に取り組むことができた。

課題

- ・ 活字が小さいので、低学年は掲示場所や掲示方法に改善が必要である。
- ・ 読む力に個人差が大きい。学年が上がるにつれ、記事を精選したり、感想を書いたりする力にもつながるので、まずは文章を読んで内容を理解する力をつけさせたい。
- ・ 新聞を定期購入している家庭が少なく、児童が新聞を手に入れることが難しい。ネット購読なども視野に入れ、新聞に親しめる環境作りが必要である。

6 来年度に向けて

今年度は、校内研修の一環と昨年度からの実践継続という形で取り組んだ。学年間での情報交換や教材共有などを進め、職員への過度な負担がないように進めていった。2年目に向け、内容の整理を行い、さらに充実した指導を図っていきたい。

1 はじめに

本校は、枕崎市の中心に位置し、全校児童375名の学校である。四年目のN I E実践校となった。

新聞を活用することで、学力向上や社会で起きている様々な事象に関心を持つことを期待している。これまでと同様テーマは、「新聞に親しみ、興味関心をもって主体的に活用する子どもの育成」とし、実践を行った。

2 実践内容

- (1) コミュニケーションタイム（てきぱきプレゼン）の実施
- (2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置
- (3) はがき新聞の作成
- (4) 新聞社への投稿
- (5) 校内はがき新聞コンクールの実施
- (6) よむのびコンクールへの参加
- (7) 職員研修の実施
- (8) よむのび教室の実施

3 実際

(1) コミュニケーションタイム（てきぱきプレゼン）の実施

朝の15分活動にコミュニケーションタイムを設け、児童のコミュニケーションスキルを伸ばすよう実践をしている。その時間に、新聞を活用し、てきぱきプレゼンを行った。週末の家庭学習で新聞から気になる記事を選び、「なぜその記事を選んだのか」、「どう思ったか」、「意見・提案」などをワークシートに記入する。そのワークシートを持ちより月曜日の朝に一人30秒間でプレゼンし、その後、自由に記事についての話をすることにした。本実践は一昨年度からの継続実践である。4年生から実践を行っているが、4年生には新聞の内容を自分で読むことがまだ難しいので、1回目に新聞の記事選び、2回目にワークシート記入、3回目に発表、と3回分時間を分けて行った。「てきぱきプレゼンで扱った記事が読んでいた本にも載っていました。」と気付く児童もあり、記事を通しての交流も活発にできた。



【写真1 てきぱきプレゼンの様子】

(2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置

4年生以上の各学級に設置している。これにより、身近に新聞がある環境が整い、子どもたちが隙間時間に新聞を読むことができるようになった。図書室横の廊下にも昨年度同様、司書教諭が気になる新聞の切り抜きを掲載した。児童が図書室に行く際に足を止めて記事を読む姿が見られた。また、本年度は夏季休業中



【写真2 職員研修で作成した回し読み新聞】

に行った職員のN I E研修で作成した職員による回し読み新聞も掲示した。

(3) はがき新聞の作成

これまでと同様新聞記事の内容をより深く理解するためにはがき新聞づくりを行った。はがき新聞づくりは、学習のまとめとして作ったり、長期休みの感想新聞、新聞を読んでの意見・感想を書いたりするなど様々な場面で活用した。はがきサイズの新聞づくりなので、児童への負担も少なく、喜んで作る児童が多かった。新聞の構成を身に付けることにも役立てられた。本年度も学年掲示板で常設してはがき新聞を掲示し、継続した取組・掲示をすることができた。



【写真3 学年掲示板のはがき新聞】

(4) 新聞社への投稿

新聞により親しみを持つために、南日本新聞の「若い目」欄への投稿をした。各学年で行事の感想文や良い日記など投稿を行った。本年度は2点掲載された（令和4年12月現在）。

(5) 校内はがき新聞コンクールの実施

一昨年度より取り組んでいる校内はがき新聞コンクールを本年度も開催した。本年度は読んだ新聞記事と一緒に応募するように変更をした。どの記事を読んだか分かるようになったので、これまで以上にはがき新聞の内容も分かりやすくなった。学年で1点校長賞を決め、全校朝会で表彰をした。



【写真4 1・2年生の受賞作品】

(6) いっしょに読もう！新聞コンクールへの参加

日本新聞協会が実施しているコンクールに4年生以上が参加した。このコンクールでは、新聞を読んでも、自分の感想をもった後、親や友達など周りの人に感想を聞くようになっている。同一の記事を読んでも読む人の立場などによって感じ方が違うことに気付くことができた。たくさんの保護者が一緒に参加し、保護者への啓発にもつながった。本年度は応募総数約6万編の中から、2名の児童が奨励賞を受賞した。



【写真5 回し読み新聞作成の様子】

(7) 職員研修の実施

昨年度に引き続き、本年度も夏季休業中に職員研修を実施した。本年度はより新聞を楽しく活用する方法の紹介を目指し回し読み新聞を作成した。あまり新聞を読む機会が無い職員も楽しく新聞を作ることができた。完成した回し読み新聞は、掲示板に掲示した。

(8) よむのび教室の実施

本年度も4年生の児童を対象に、よむのび教室を実施した。国語の「新聞を作ろう」の学習の一環で、新聞を作る時に大切にしたいことやアンケートの取り方

などを記者の方に教えていただいた。学んだことを生かして新聞を作成することができた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 本年度は例えば校内はがき新聞コンクールで選んだ記事も添付させたので、今まで以上に分かりやすい掲示をすることができた。このように、これまで行ってきた取組の一部を工夫・改善することで、それぞれの取組を充実させることができた。
- ・ 担任の朝の新聞紹介によって、新聞に興味を持つ子が増えた。新聞記事をもとに拉致問題や月食、外来生物について調べてみる子がいたり、読んでいた本に新聞記事と同じことが書いてあったと報告したりする子もあり、新聞が子どもたちの身近なものとなってきたことを実感できた。
- ・ てきばきプレゼンやはがき新聞コンクールなど新聞を活用した取組が職員や児童に定着しつつある。

(2) 課題

- ・ 実践をより職員全体に広げていく必要がある。
- ・ 下学年の新聞活用ができないかを考えていく。
- ・ 無理なく実践を続けていけるようにしていきたい。特に本年度で実践校を外れるため、今後の新聞調達が課題。



【写真6 よむのび教室の様子】

新聞に絡んだ小さな一コマ



てきばきプレゼンで選んだ記事が本にも載っていました。野菜を工場で育てる時代だそうです。



児童会活動で全校児童が楽しむチャレンジランキング。新聞の「の」の字探しはいつも人気です



学年集会で、新聞乗りチャンピオンを決めました。遊びにも使える新聞ってすごい！

令和4年度 NIE 実践報告（実践校2年目）

いちき串木野市立荒川小学校

1 はじめに

本校は、いちき串木野市北西部に位置し、3学級全児童17名の小規模校である。校内研修テーマ国語科「自分の考えを適切に表現できる子どもの育成」を進めるにあたり、新聞を学習に活用することが学力向上に有効であると考え、NIEの取組みを行った。実践2年目の今年度は、新聞を購読している家庭が少なくなっている中、日常的に新聞にふれる機会を増やし新聞に慣れ親しむことを目標に、新聞を活用した様々な取組を行うことができた。

2 本校NIE教育の目標

【新聞を読むことに慣れ親しみ、「書く」活動に活かす】

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

新聞記事を読み、思いや考えを簡単な文章に書くことができる。

高学年・・・興味関心のある記事を選択し、記事に対する思いや考えを書くことができる。

各教科の学習内容を新聞形式にまとめることができる。

3 具体的な実践内容

- (1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施・・・全学年
- (2) 新聞コーナーの設置・・・全学年
- (3) 各教科での新聞づくり・・・全学年
- (4) 南日本新聞への投稿・・・全学年

4 取組みの実際

(1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施

毎月1回、土曜授業のチャレンジタイム（8：20～8：40）の時間をNIEタイムとして設定し全学年取り組んだ。

低学年・・・新聞の読み方や記事からの漢字名前探し、意味調べ

子ども新聞を自由に読み、興味をもった写真や記事についてその理由を発表する活動

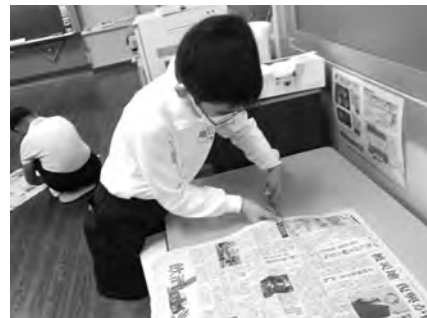
記事を読んで
思ったことや考
えたことを友だ
ちに紹介してい
る様子。



中学年・・・新聞の読み方の学習

南日本新聞社のN I Eのページに掲載されているワークシートを活用し、読み取る力を高める活動

ワークシートに
取り組んでいる
様子



高学年・・・新聞の読み方の学習

南日本新聞社のN I Eのページに掲載されているワークシートを活用し、読み取る力を高める活動

共通の記事
を読み、課題
に答える様
子。解答後
は、記事に
対する感想
の交流も行
った。



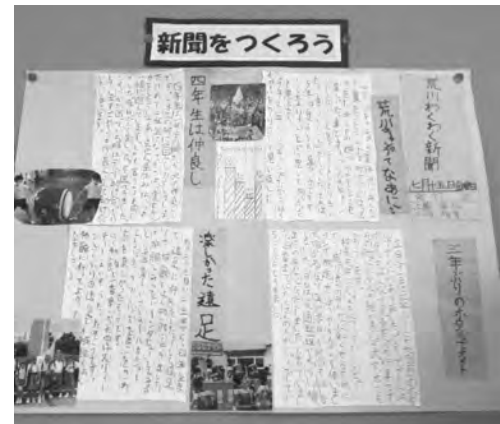
(2) 新聞コーナーの設置

N I Eの取り組みによりこれまで配達していただいた『子ども新聞』を図書室の新聞コーナーにストックしておき、児童が継続して閲覧できるようにしている。



(3) 各教科での新聞づくり

国語や社会の学習などを中心に新聞形式にまとめる活動を行った。



(5) 南日本新聞への投稿

南日本新聞『若い目』への一人一投稿を目標に、日記や行事の感想、夏休みの作文等を基に投稿を行った。数名の児童が掲載されている。

また、南日本新聞の「読むのびコンクール」には、4年生以上の全員応募を行うことができた。

南日本新聞に掲載された児童の作品や学校の様子は、校内掲示板への掲示を行っている。



5 成果と課題

成果

- ・ 新聞に親しむきっかけになった。新聞の読み方を理解することができた。
- ・ 自分で記事を選び読めるようになってきている。読んだ記事を自分の言葉で発表できるようになってきている。(低学年)
- ・ 新聞に親しむきっかけになった。政治・環境・スポーツ等内容が幅広いので 子どもたちの視野が広がったように感じる。(中学年)
- ・ 国語の新聞づくりの単元の参考になった。(中学年)
- ・ 新聞記事を用いたワークシートに取り組むことで、読解力・語彙力を高めることができた。(中・高学年)
- ・ 継続して新聞を読む機会を設けることで、多様な記事の中から興味をもったものを選択し読み進めることができるようになってきている。(高学年)
- ・ 記事に対する思いや考えを簡潔に文章に書くことができるようになってきた。また、学習したことや夏休み・冬休みの出来事を新聞形式に整理してまとめることに慣れてきた。(高学年)

課題

- ・ 読む力に個人差が大きい。まずは、文字を読む力をつけることが必要である。読む力がついていなければ、子ども新聞を読んで内容を理解することは難しい。(低学年)
- ・ 活字が小さいので読むことに抵抗を感じる子どももいる。発達段階に応じた効果的な活用方法を考えていきたい。(中学年)
- ・ ワークシートの取り組みでは読み取る時間に個人差がみられる。隙間時間を使って新聞を読む時間を確保したい。(高学年)
- ・ 読む記事に偏りがあり、スポーツ記事が多くなってしまう。(高学年)
- ・ 「若い目」への投稿は、全員行うことができなかった。年間を通して計画的な投稿が必要である。(全学年)
- ・ 「子ども新聞」の活用方法の検討・見直し(全学年)
- ・ 新聞を定期購入している家庭が少ない。校内で新聞をもっと手に取りやすいような環境作りが必要である。(全学年)

6 来年度に向けて

今年度、全校での取り組みは、主に月1回のチャレンジタイムの時間を中心に行った。その他の取組は担任裁量であったため、学級間での情報交換を行いながら進めていった。今年度の課題を次につなげることができるよう取組を整理し、内容を検討・見直しを行っていきたい

また、今年度の活動を活かし、より新聞に慣れ親しむことができるように、児童が新聞に触れる時間を増やしていきたい。

令和4年度 N I E実践報告（実践4年目）

霧島市立青葉小学校

1 テーマ

読書（新聞）のよさを味わい、自分の世界を広げることができる児童の育成

2 目指す子どもの姿

- (1) 低学年・・・新聞に興味をもち、気づいたことを表現できる子ども
- (2) 中学年・・・情報をもとに自分の考えをもち、表現できる子ども
- (3) 高学年・・・相手意識をもち、自分の考えを表現できる子ども

3 実践内容

- (1) N I Eタイムの実施
- (2) N I Eコーナー(新聞閲覧)の活用
- (3) 新聞を活用した授業の実践

4 研究の実践

(1) 校内研修への位置付け

研究主題	飛躍的な学力向上 ～資質・能力の明確化と児童のメタ認知を通して～		
仮説	育成をめざす資質・能力の明確化を図り、児童が何を学び、何ができるようになったかを認知するならば、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力」「学び向かう力・人間性」の学力の三要素の調和が図られ、飛躍的な学力向上につながるのではないかと。		
【視点1】 「資質・能力の明確化」 ・めざす資質・能力の明確化 「何ができるようになるか」 ・児童のメタ認知の向上 「何が身についたのか」		【視点2】 「主体的・対話的で深い学び」の視点 に立った授業改善（継続） ・青葉小21の手立ての実践 「短冊作文」「交流の場の工夫」「振り返りの場の設定」	
		【視点3】 「PDCA サイクル」の有効機能 ・PDCA サイクルの構築 ・共通実践事項の検討 ・検証や改善方法の検討	

※ 具体的実践事項「青葉小21の手立て」

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業

「主体的な学び」

- 手立て① **問題提示の工夫**：興味や関心をかき立てる事象や教材の提示を通して、問題意識を高める。
- 手立て② **「自分事」の学習問題**：疑問をもとに、解決したいことを焦点化して「自分事」の学習問題をもつ。
- 手立て③ **見通しをもつ**：問題を解決するための方法や結果を見通し、問題解決の構想を立てる。
- 手立て④ **考えをもたせる工夫**：本時の問題解決に必要な既習事項の確認、補助発問等を準備する。
- 手立て⑤ **「授業運動型家庭学習」の取組**：マイデータをもつ等、個の考えを生かして授業に取り組む。
- 手立て⑥ **主体的な読書・新聞活用**：関連図書の並行読書や新聞記事を活用し、関心を高め、思考の材料を増やす。

「対話的な学び」

- 手立て⑦ **交流の場の工夫**：話合いの意図の明確化。内容(発問)の工夫。児童の実態を考慮した編成・形態の工夫をする。
- 手立て⑧ **表現活動の工夫**：様式や多様な手段(図・表・用語・具体物等)を取り入れる。
- 手立て⑨ **子供の考えをつなぐ工夫**：比較、分類、関連付け等の視点をもって、ペア・グループ学習に取り組む。
- 手立て⑩ **協働的な学び**：協働的に課題を解決する学習を取り入れる。
- 手立て⑪ **情報の収集**：図書や新聞等で多様な情報を収集する。

「深い学び」

- 手立て⑫ **子供自身でのまとめ**：学習問題に対応したまとめを子供の言葉で行い、学習内容を押さえる。
- 手立て⑬ **振り返りの場の設定**：学習内容の確認や一般化、自己変容の自覚を図る。**記憶の時間の設定**。
- 手立て⑭ **活用問題への取組**：教科書の活用問題、学力調査過去問題、Web問題に取り組み、習熟や一般化を図る。
- 手立て⑮ **短冊作文・三角ロジックの活用**：様式や文字数、時間、事実・考え・理由を意識し、論理的表現力を向上させる。

読書活動・NIEの実践

- 手立て⑯ **新聞・図書の活用**：新聞・図書を積極的に活用し、言語活動を充実させる。
- 手立て⑰ **語彙力の向上**：読書活動の推進、NIEタイムの充実、教科書「言葉の宝物」、国語辞典等を活用する。
- 手立て⑱ **新聞社への投稿**：新聞や表現活動への興味や関心の向上を図るため、作品を新聞社へ投稿する。

環境づくりを通じた実践

- 手立て⑲ **ユニバーサルデザイン化**：簡潔な説明、ねらいと活動の焦点化、視覚化等どの子にも学びやすくする。
- 手立て⑳ **構造的な板書**：問題→めあて→見通し→思考→まとめ→活用・振り返り等、思考の流れが分かる板書する。
- 手立て㉑ **設営・環境の工夫**：既習事項内容、新聞、関連図書など、思考の材料となるものを設営する。

(2) N I Eタイムの実施

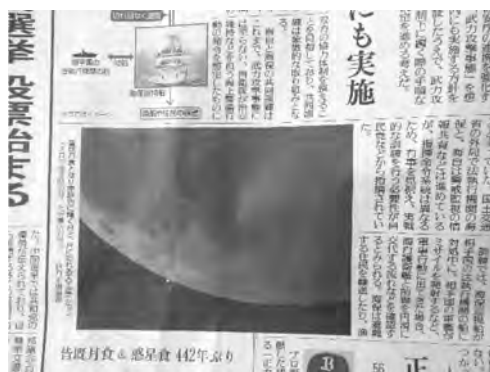
月に1回程度、朝の時間（8：30～8：45）にN I Eタイムを設けている。

新聞を活用した学習活動で、学年で統一した内容を実施している。以下主な取り組み。

【1年】

1学期初めは、1年生にとって初めてのN I Eタイムなので、子ども新聞についての説明やこれからのN I E学習についての話をした。そして子どもたちが興味を持ちそうな記事を読み聞かせた。

2学期になると、子どもたちがひらがなを読めるようになってきたので、2人で1枚の新聞を手にとり、どんなことが書いてあるのかを自分たちで読む活動を取り入れた。



11月のN I Eタイムでは、442年ぶりの皆既月食と惑星食の記事を取り上げた。教師が、記事を提示し読み聞かせを行った。テレビでも話題となった皆既月食と惑星食の記事だったので、「ぼくも見た」「すごかった」と喚起の声をあげながら、子どもたちは目を輝かせていた。1年生にとって、難しい内容であったが、記事を取り上げることで、自分たちの日常と新聞が関連していることに気づくことができた。

【2年】

2年生になって初めてのN I Eタイムでは、学校にある新聞コーナーについての説明や今後の活動の説明をした。1学期の活動は、主に「若い目」に掲載された2年生の作品を読み聞かせた。自分たちと同じ2年生の作文を活用することで、子どもたちが興味を持って聞き、自分の感想を持つことができた。読み聞かせが終わった後、自分の思ったことや考えたことを短冊作文に書いて交流した。



2学期は、小学生新聞を広げてどんなことが書いてあるのかをペアで読み取る活動をした。クイズや動物のこと、ジブリパークの内容など、テレビで見たことのある記事を発見して「これ、みたことあるよ。」「見て、見て。」と声が上がっていた。自分の知っていることを友達に教えたりしながら、新聞に親しんでいた。教師が記事の内容を読み聞かせすることも効果的であった。

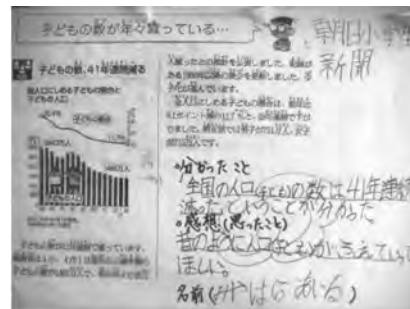
【3年】

新聞で大きく取り上げていた「沖縄戦慰霊の日」の記事を使って、学年集会を実施した。記事にのっている写真や図をテレビで見せながら解説した。戦争や平和について考えるよい機会となった。その後絵本「つるちゃん」のブックトークを行った。



【4年】

朝日小学生新聞の「ニュースあれこれ」のコーナーを使って、子供の人口の変化を示したグラフを読み取ったり感想を書いたりして交流を図った。客観的な数字を示したグラフを見ることで、自分たちが思っているよりも、子供の人数が減っていることに驚いていた様子で、新聞を活用する良さを感じていた。



【5年】

南日本新聞ホームページ「みなみ edu」のワークシートに取り組ませた。霧島市の新燃岳の防災に関する記事だったので、身近な話題として興味を持って取り組むことができた。自分の感想や考えを書く活動を通して、新聞記事に親しむことができた。



【6年生】

1学期は、社会科「縄文・弥生時代」に取り組んでいた時期と重ねて、新聞を使った学習を行った。「みなみEdu」から、「鹿屋・立塚遺跡から管玉出土」についての記事を読み、ワークシートの問題を解いた。子供たちは、自分たちたちの地域と歴史学習を結びつけながら考えるよい機会となった。

2学期は、「みなみEdu」から、「ウクライナ避難民が来鹿」についての記事を読み、ワークシートの問題を解いた。戦火にあるウクライナ情勢が鹿児島にも影響があり、他人事ではないと実感していた。自分たちにできることを考え、1学期に児童会で取り組んだウクライナ募金について思い出した子も多かった。記事を読んだ感想は、自分の考えの根拠を明確にして100字以内で書くようにした。



(3) N I Eコーナー(新聞閲覧)の活用

おやじの会の協力により新聞閲覧台を制作してもらい、各階に新聞を掲示している。設置場所は、子供たちがよく通る場所であり子供の目線の高さに合っているため、閲覧しやすくなっている。

毎朝配達された新聞を、広報委員会の子どもたちが校内にある4つの新聞閲覧台に広げて展示している。低学年コーナーには小学生新聞をおいているが、低学年にも目につくように、写真や絵のあるページを広げて掲示するようにしている。中学年・高学年コーナーには、南日本新聞、朝日新聞、朝日小学生新聞など、いろいろなジャンルのものを置いている。高学年の学習にあった記事を広げておくように、委員会の子供たちが工夫して掲示している。

雨の日などは、昼コーナーで新聞を読んだり、本に親しんだりする姿が見られる。新聞に対する愛着をもち新聞記事に興味関心を持ち、記事の内容を楽しむ様子がよく見られる。

各学年の廊下には、「こんな記事見つけたよ」のコーナーがある。学習に関連した記事や子供たちが興味を持つような記事を掲示しており、足を止めて記事を読む姿がある。



(4) 新聞を活用した授業等の実践

社会科や理科の教材と関連した記事を資料として活用したり、国語科の作文指導の際にテーマを考える材料として新聞記事を使って指導したりと、授業の資料としての活用にも取り組んだ。また家庭学習の一つとして、3年生では新聞記事の視写を取り入れたり、新聞の感想を書かせるなどの課題を与えたりしている。6年生では夏休みや冬休みの課題として新聞づくりに取り組ませた。見出しを工夫したり、レイアウトを考えたりと新聞の記事を参考に意欲的に取り組んでいた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 4年間N I Eに取り組んできた。新聞を購読していない家庭も多く、日頃新聞を目にする機会が少ない子供たちにとって、新聞を活用した学習活動を設定することにより、全体的に新聞に親しむ機会が増えた。
- ・ 学年の発達段階にあった新聞活用を、月1回のN I Eタイムで実践しながら取り組むことができた。高学年では、「みなみE d u」の新聞記事をもとに学習活動を設定した。自分なりの考えを100字以内で書く活動を通して、感想や自分の考えの根拠を文章に表すことができていた。
- ・ 新聞記事を読むことで、書くための知識や語彙力の向上へつながっている。

(2) 課題

- ・ ネットが普及し新聞を購読していない家庭も多く、家庭と連携を図り親子で記事について語り合うような活動ができなかった。
- ・ 教師自らが新聞に興味を持ち、タイムリーな話題を読み聞かせするなど、子供たちへ新聞の楽しさや良さを伝えていく必要がある。

鹿屋市立笠野原小学校 令和4年度のNIE取組について

1 本校 NIE 教育の目標

「新聞を読み取り、情報を生かす力・社会とつながる力を育てる」

2 各学年の努力点

低学年	中学年	高学年
○ 新聞がどのような紙面になっているのかを見る。 ○ 各種活動において子ども新聞の写真や図を使うことで新聞に親しむ。	○ 調べ学習や文章に表すための資料として新聞を使うことで、表現力を育てる。 ○ 教科で調べたことを新聞形式にまとめることにより構成力を身に付ける。	○ 記事の読み比べや友達との意見交流を通して、思考力・判断力を身に付ける。 ○ 新聞をもとにした発表資料を作り、構成力・判断力を身に付ける。

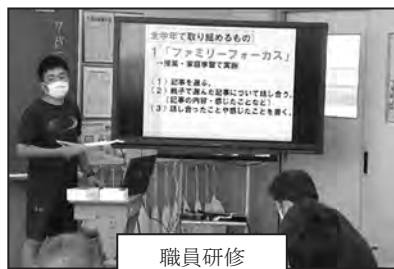
3 学校全体での取組

(1) 年度初めの共通理解・職員研修

年度初めに教育課程をもとに全体計画を確認した。担当がこれまでの実践例を紹介し、各学年で実践する内容を設定した。夏季休業の職員研修で、NIEの目的や実践の進め方を確認した。

(2) NIE コーナーの設置

教室前ろうか掲示板と校長室前掲示板と図書室に設置。「オセモコ」「紹介記事」「新聞に掲載された児童の作品」等を掲示した。休み時間や給食の片付けの時などに、児童が友達と一緒に記事を読んでいる。



職員研修



実践事例の確認



校長室・教室前の掲示



(3) 委員会活動での取組

ア 放送委員会

南日本新聞の記事や「オセモコ」の中から自分が興味をもった記事を選び、給食時間の校内放送で記事の音読と感想の発表を行った。

イ 給食委員会

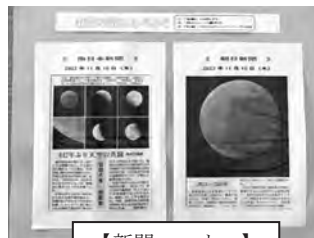
食に関する記事を読んで啓発資料を作成し、給食室前に掲示した。

ウ 広報委員会

ファミリーフォーカスを行い、校長室前 NIE コーナーに掲示した。



【放送委員会】新聞記事選び⇒給食時間の放送



【新聞コーナー】
新聞記事の読み比べ



【広報委員会】
ファミリーフォーカス

(4) ファミリーフォーカス

週末の課題等でファミリーフォーカスを実施した。書いたものは廊下に掲示して、クラスの友達がいつでも見ることができるようにした。

(5) 担任による新聞記事紹介

定期購読している新聞を計画的に各学級に配布し、担任が朝の会等で記事紹介を行った。

(6) コンクールへの参加

4年生以上は、夏休みに「よむのびコンクール」に取り組み、4年生から6年生までで合計160点を出品した。今年度は肝属地区学校賞を受賞した。

4 各学年の授業実践

年度初めに全職員で実践例を確認し、各学年において授業を通したN I E実践に取り組んだ。



【5年】	
教科	実践内容
総合	『今日のヒーロー』 ・新聞からヒーローを見つけ、記事の内容や感想を書かせる。
国語	「和語・漢語・外来語」 ・新聞の中から「和語・漢語・外来語」を見つけ、どのような状況で使われているかを考える。
国語	同じ日の各社の新聞記事を読み比べる。 見出しを記した新聞記事を読み、おもしろい見出しを考える。
【6年】	
教科	実践内容
朝の会 朝の会	・気になる記事を選び、目直がスレーチする。 ・新聞を読んでタイズを作り、目直が1日3問出題する。
国語	「自分の考えを明確に伝えよう」 ・「ひろは欄」の投稿作品を用いて、事実と意見の分量の違い、文法表現に気付かせる。
国語	「熟語の成り立ち」 ・新聞の中で使われている熟語を見つける。
国語	「学級討論会をしよう」 ・新聞から議題を決めて、学級討論会をする。
体育	「体の使い方をしよう」 ・スポーツ選手の写真を見て、正しい体の使い方を発見する。 (野康選手が投げるところ、走り幅跳び、ハードルなど)



〈各学年担任に配布した実践例〉(5・6年)

授業実践 1年 国語科

- ☐ 単元 かたかなを かこう
- ☐ 目標 カタカナを読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。
- ☐ 事前
 - ・朝の会等で新聞記事を基にワールドカップについて触れ、世界の国々の名前やルール、選手名に興味を持たせる。
 - ・ワールドカップについてのまとめ記事を紹介し、活動に意欲をもたせる。
- ☐ 本時の流れ(2/2時間目)
 - (1) ワールドカップについての新聞記事を紹介する。
 - (2) カタカナで書かれた言葉を探して、ワークシートに書き出す。
 - (3) 見つけた言葉について、友達と交流する。
 - (4) 見つけた言葉を発表し、言葉の区切り方や使い方を確かめる。
 - (5) 感想を発表する。
- ☐ 事後
 - ・身近な物(新聞を含む)からカタカナを探し、読んだり書いたりする。
 - ・ものの名前を聞いたときには、カタカナで表記するのか、ひらがなで表記するのかについて判断させる。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味を示していた。
 - 意欲的に、かつ、集中して取り組んでいた。
 - たくさんのかたかなの言葉を見つけ、語彙を増やすことができた。
 - ▲紙面の読み方に慣れていない児童が多く、言葉の区切りが分からないようだった。区切り方や使い方を確かめる時間が必要である。



授業実践 2年 生活科

- ☐ 単元 図書かんをたんけんしよう
- ☐ 目標 地域の公共施設である図書館を調べたり、見学したりすることを通して、まちな多くの人が利用することや、それを支える人たちがいることに気付く、自分たちも使ってみようという意欲を高められるようにする。
- ☐ 学習の流れ
 - (1) 図書館で調べたいことや質問を考える。
 - (2) 図書館で、実際に調べたり質問したりする。
 - (3) 新聞を広げ、レイアウトなど新聞の書き方を調べる。
 - (4) 図書館を探索して分かったことや気付いたことを、新聞にまとめる。
 - (5) 新聞を、友達と交換して読み合う。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味をもち、新聞を広げる子が出てきた。
 - 新聞にまとめる活動を楽しみ、意欲的に活動していた。
 - ▲漢字や言葉の意味が分からないことで、新聞に興味を示さない子もいた。難しい言葉等について調べさせる等の手立てをとりたい。
 - ▲分かりやすくまとめることが難しいと感じる子がいた。

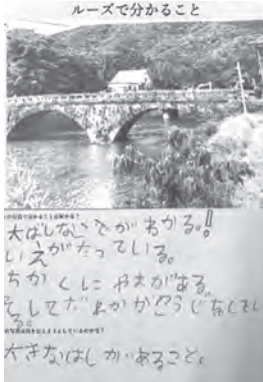


授業実践 3年 国語科

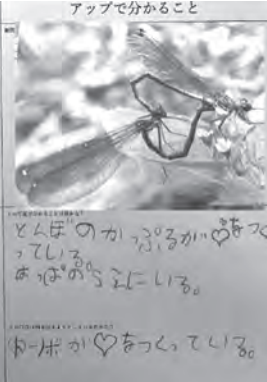
- 単元 ポスターを読もう
- 目標 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
・比較や分類のしかたを理解し使うことができる。
- 事前 子ども新聞を読む。
- 本時の流れ（2／2時間目）
 - (1) 2枚のポスターを比べ、どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか考える。
 - (2) 本時のめあてを確認する。
 - (3) どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか、理由を友達と話す。
 - (4) 2枚のポスターを比べて、気づいたことを整理する。
 - (5) ポスターに違いが生まれる理由について話し合う。
 - (6) 単元の学習を振り返る。
- 事後 学んだことを総合的な学習の時間の新聞作りや新聞の読み比べに活用する。
- 成果と課題
 - 2つのねらいの違うポスターを比較することで、ポスターなどを作成するときの言葉や文字、イラストの配置など様々な工夫の仕方を学び、新聞作りなどに生かした。
 - ▲ 目的や対象によって工夫することが難しい児童がいた。

授業実践 4年 国語科

- 単元 「アップとルーズで伝える」(写真の使い方)
 - 目標 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
 - 事前 ・教材をもとに、「アップやルーズ」などについて学習する。
・目的に応じてアップやルーズが使い分けられていることを知る。
・実際の新聞からアップやルーズの写真を見つけ、何を伝えたいのか考える。
 - 本時の流れ（8／8時間目）
 - (1) 実際の新聞記事を見て、アップとルーズの写真を探す。
 - (2) 記事を読み、何を伝えたい写真なのかを読みとる。
 - (3) ワークシートにまとめる。
 - (4) 共有し、アップとルーズが目的によって使い分けられていることを理解する。
- ルーズで分かること



アップで分かること


- 事後 ・作ったワークシートグループや学級全体で共有する。
・新聞だけでなく、様々な媒体で使い分けられていることを知る。
 - 成果と課題
 - 実際の新聞を使って学習することにより、身近に学習利したことがあることを知ることができた。
 - タブレットを使うことにより、友達のを参考にしたり、比較したりできる。
 - ▲ 言葉が難しく理解しにくいものもあるので、普段から辞書等で調べる癖をつけさせたい。

授業実践 5年 国語科

- 単元 読み手が納得する意見文を書こう（教材：「あなたはこう考える」）
- 目標 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- 事前 児童が興味を持つような新聞の投書を紹介し、題材を決める。
- 本時の流れ（2／6時間目）
 - (1) 作例を読み、書き表し方の工夫を見つける。
 - (2) 全体で共有して、意見文を書くときの観点をまとめる。



- (3) 題材として選んだ新聞投書を読み、自分の主張の根拠となる事実を印をつける。
- (4) 主張、事実、理由を思考図（ペンタゴンロジック）にまとめる。
- (5) まとめた思考図を友達と確認し合う。
- (6) まとめ、振り返り

☐ 事後 主張の根拠となる理由について質問したり、質問に対する説明を加えたりする。

☐ 成果と課題

- 新聞の投書について時間をかけて読ませたことで、新聞に対する興味・関心を高めることができた。
- 複数の投書を提示したことで、自分の考えに合う題材を選ぶことができた。
- ▲ 自分の主張の根拠になる「事実」を見つける読み方を継続的に指導する必要がある。

授業実践 6年 国語科

☐ 単元 日本文化を発信しよう

☐ 目標 新聞の見出し、小見出し、リード文、割り付けを参考にして、パンフレットを作る。

☐ 事前 集めた情報を整理して、パンフレットの構成を決め、誰がどのページを書くか分担を決める。

☐ 本時の流れ（5／7時間目）

- (1) 新聞を読んで、見出し、小見出し、リード文はどこにあたるかを確認する。
- (2) 最も伝えたいことは何かを明確にし、絵や写真とのバランスを考えて割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりする。
- (3) 教科書の文章構成の例を参考にして、下書きをする。

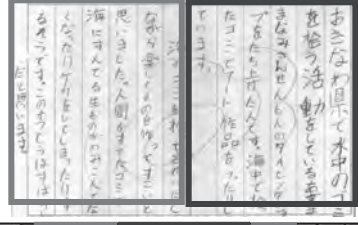
☐ 事後 班ごとに作ったパンフレットを読み合い、工夫が見られた点など感想を交流し合う。

☐ 成果と課題

- 新聞を活用したことでイメージが湧き、割り付けしたり、見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることができた。
- ▲ 新聞を活用したことでイメージはしやすかったが、割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることには個人差があった。

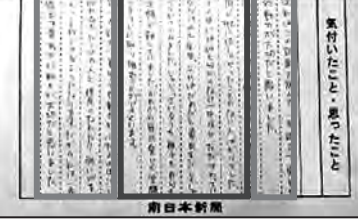
◎ 3年生以上は、家庭学習で定期的に新聞ワークシートにも取り組んでいる。

3・4年
ファミリーフォーカス
感想文

事実 → 感想

5・6年
ファミリーフォーカス
意見文

主張 → 事実 → 理由

5 成果と課題

(1) 成果

ア 職員研修を行うことにより、NIEの概要、各学年の実践例などを確認したうえで、年間を通した取組を実施できた。

イ 学年1つ以上の授業実践に取り組み、職員間で共有することにより、本校における系統性をもった実践事例を確認できた。

ウ 様々な委員会活動において、目的や時期に合わせた新聞活用ができた。

(2) 課題

ア 実践事例を来年度以降も引き継げるように、教育課程に取組内容を明記する。また、教科部会で、年度初めの取組方法の確認と学期末の取組状況の確認を行う。

イ 教児とともに定期的に新聞にふれることができるように、全校でファミリーフォーカスや新聞音読などに取り組む時期を設定する。

ウ 職員研修で教育活動全体を通した新聞活用法について話し合い、実践例を増やすとともに、次年度以降も同じように実践できるように引き継ぐ必要がある。

令和4年度 NIE 実践報告

薩摩川内市立平成中学校

NIE 担当 有川 沢美

1 はじめに

実践3年目の今年度は、『NIE実践を通して、生徒の視野を広げるとともに、様々な角度から物事を見たり考えたりするきっかけづくりとする』ことを大きな目的として取り組んだ。

新聞で取り上げられているニュースをもとに、「主体的・対話的で深い学び」を通して、生徒一人ひとりが今日的課題を発見・解決し、問題解決力を育むための新聞教材の効果的な活用を探った。

2 実践内容

(1) 新聞記事の掲示

国内外で起きている問題を、「いつでも誰にでも起こりうる事」と捉え、特に若年層に関わる事案に焦点を当てて生徒に紹介している。特に、安易なSNS使用が原因となる問題（生命に関わる問題や性被害等）については、「決して他人事ではない」という視点をしっかり育てたいという強い思いがあり、頻繁に掲示記事の更新を図っている。その他、関心のある分野以外にも目を向ける機会を持たせたい、との意図で、多岐にわたる記事を掲示している。

【校内に掲示された新聞記事】



(2) 生徒による新聞作成

家庭科では、主に「保育」单元の中で、近い将来を見据えた3年生による新聞作成を行っている。多種多様な着眼点で、友だちとの活発な意見交換ができている。

【生徒が作成した新聞】



(3) 授業での記事紹介

ふだん教科書の中でしか理解することのない自然現象や政治に関する用語などがタイムリーな話題として新聞で取り上げられている際は、授業の中で紹介し、その事象や政治的問題が自分たちの生活にも大いに関わっていることに気づかせ、自分から考え意見を持たせる場としている。



理科では、天体やエネルギー分野に関したニュースを取り上げることも多い。
1年：地震
2年：エネルギー
3年：天体、エネルギー



身近で起きた大きな事件を、新聞記事を用いて即座に話題にし、当事者意識を持たせる。

（４）薩摩川内元気塾

本校では年２回、『薩摩川内元気塾』を開催している。これは、「将来、日本規模・世界規模の広い視野で物事を考え、自分を磨き、郷土薩摩川内市に大いなる元気を与え、貢献してくれる人材を育成しよう」との趣旨で市教育委員会が開設し、薩摩川内市内の全小・中学校・義務教育学校で行われている。

子どもたちの希望を聞いたり、地域の協力をもらったりしながら、将来の夢や希望を与えるような講師を選定し、講演会やワークショップ型の学習会を開いたりするものである。

今年度は、南日本新聞社より講師をお招きし、『やりとりの大切さ』をテーマにした講演のあと、学年を解いた縦割り編成のグループでワークショップ『まわしよみ新聞』を行った。

日ごろ他学年と関わることの極めて少ない生徒たちは、このグループ編成に不安な表情を見せてたが、時間の経過とともにメンバーとうち解け、気になる記事を真剣に探したり切り抜いたりしていた。

この時間のまとめとして、グループごとに制作したオリジナル新聞を、全員の前で発表し合った。ネーミングの由来、記事を取り上げた理由、レイアウトで工夫した部分など、「相手に伝わりやすく」を意識しながら、全グループが堂々と発表できた。



↑ 南日本新聞社 下舞氏による講話。
テーマは『やりとり』



↑ 他学年とのワークショップ



＜生徒の感想＞

- 僕たちのグループは選ぶ記事がバラバラで、どんなふうにもまとめればよいか悩んだが、みんなで話し合った結果、全部採用して「バラバラ新聞」を作ることにした。案外いい新聞になって良かった。
- 自分たちとは全く違う視点で新聞を作っているグループもあり、人それぞれ興味を持ったり、人に伝えたい内容はちがうんだな、と感じた。
- しゃべったことのないメンバーばかりで、最初は不安だったが、作業を進めていくうちにいつの間にか色んなことを話しながら作業できて、楽しく新聞づくりができた。

今回の『薩摩川内元気塾』は生徒にとって、身の周りにはあふれる情報について、それが信頼できるものであるかどうかを判断する力や、共通の話題を通して相手とやり取りをするコミュニケーション力の大切さに気づくよいきっかけとなった。

(5) 図書室での閲覧環境づくり



図書室に新聞コーナーを設けている。生徒会図書部の常時活動として、“いつでも誰でも”その日の朝刊を目にすることができる環境を作っている。

昼休みには、スポーツ欄を楽しみに図書室に足を運ぶ生徒や、帰りの会で行う1分間スピーチのネタ探しに新聞を広げる生徒等、気軽に新聞に触れている生徒の姿が多く見られる。特に5月から8月までの4カ月間は、4紙（4銘柄）を閲覧できるため、複数紙を読み比べたり、珍しい記事を見つけて友達に紹介して楽しんだりする姿もある。

(6) 1分間スピーチ

帰りの会で、1日1人ずつ1分間スピーチを行っている学級がある。担当生徒は、話すテーマを事前に準備することになっており、なるべく旬な話題をテーマにしようと、新聞記事を活用する生徒も多い。スピーチの内容は実にさまざまであるが、初めて耳にするニュースや自分が興味をもっている内容を取り上げたスピーチに対する聞き手の反応は良いため、原稿準備の段階で、聞き手の反応を意識して準備する生徒もあり、その質は回を重ねるごとに高まっているようである。これまでの原稿は、生徒全員の軌跡として、学級掲示している。

3 実践を経て

「生徒の視野を広げる」「様々な角度から物事を見たり考えたりするきっかけづくりとする」ために新聞を様々な形で教育活動に取り入れた。

〔成果〕

- 新聞の校内掲示や作成を通して、様々な分野の知識・関心を得る機会を作れた。常に“自分事”と捉える姿勢の醸成を目指し、今後も継続的に仕掛けていきたい。
- グループ活動では、コミュニケーションの大切さ気付かせることができた。

〔課題〕

- 新聞を教材として扱いやすい教科とそうでない教科があるため、他校の実践例を紹介するなどの手立てが必要である。
- 1分間スピーチでは、新聞に書いてある内容をそのまま伝える生徒もいる。自分の考えを相手に分かりやすく伝える力（表現力）の育成も充実させる必要がある。

これらの成果や課題をふまえ、更に工夫を加えて深化させたり、活動内容そのものや方法を見直すなどしながら、新聞の効果的な活用を見出していきたい。

令和4年度 N I E実践報告（3年目）

始良市立山田中学校
N I E 担当 内村加代子

1 はじめに

「新聞の内容に興味関心を持ち、自分の意見を述べ、生活に生かしていけるように、山田中全体でとりくむ」を目標とした、令和4年度（3年目）の実践を報告する。

2 実践事例

(1) 生徒会活動

ア 生徒会専門部組織にN I E 係を定着させ、今後も継続的な活動ができるようにしている。N I E 係が新聞コーナーをつくり、新聞の管理と校内掲示を行っている。休み時間に新聞を読んだ人が気軽に感想を書けるように、コーナーにはふせんとペンを準備している。



N I E コーナーで休み時間に新聞を読む



意見をふせんに書いて新聞に貼る

イ 週1回（火曜日）の全校朝会でN I E 係が「今週のトピック」として、最近の気になるニュースを紹介し、自分の意見を発表している。基本的には発表担当者が記事を選ぶが、1年生などN I E 係を初めて担当する生徒に対しては、経験者が記事選びをアドバイスしたり、読み方の練習や意味調べを協力したりしている。週1回の短い時間ではあるが、全校生徒で同じ社会課題について知り、考える貴重な時間になっている。

<発表内容の例>

- * ウクライナからの避難民、日本に千人超
- * SNS とどう向き合うか
- * 日中国交正常化から 50 年
- * 戦後 77 年、平和を考える



全校朝会でN I E 係がニュースを発表する

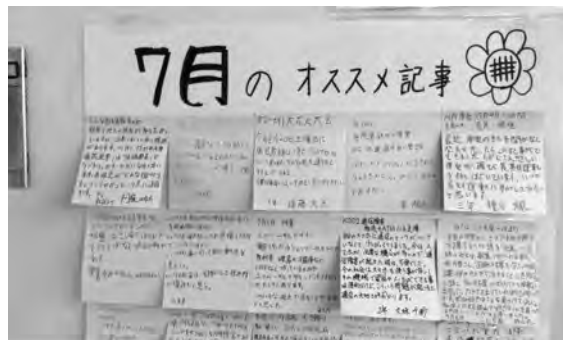


発表原稿を廊下に掲示する

ウ 昨年に引き続き南日本新聞社の学習支援サイト「すくーる 373 る」を利用することが可能となった。本年も 週 1 回の向学タイム（水曜日 25 分間の朝学習の時間）に、一人 1 台タブレットを利用し、新聞を読んでいる。読んだ記事の中から特に印象に残った内容について、一人ずつ、ふせん一枚に意見を書いている。意見を書いたふせんは、N I E コーナーに全校生徒分を掲示している。



一週間の新聞をデジタルで読む



意見をふせんに書き掲示

(2) 教師の活動

ア 英語

- ・南日本新聞「オセモコ」で紹介されている「今週の英語 NEWS」を英語コーナーで掲示している。事前に知っている時事内容を英語で見ること、生徒が興味を持ちやすく、読んでみようと思える環境になっている。



今週の英語 NEWS を掲示



「すくーる 373 る」で渡り鳥について検索

イ 理科

- ・郷土鹿児島島の自然に関する記事「大隅半島の秋の渡り鳥『サシバ』」を「すくーる 373 る」で検索して、読み合わせをした。短時間で本県の自然に関する情報を知ることができた。環境を保全し、自然と共に郷土で生きていくことを考えられた。

<生徒の意見>

- * サシバという鳥の名を初めて聞いた。絶滅しない環境をつくっていきたい。
- * とてもカッコいい鳥だ。ぜひ会ってみたい。無事に渡れるといい。
- * サシバが飛ぶ姿や渡り鳥であること、絶滅危惧種であること、全てに驚いた。
- * 鹿児島県でサシバを観察できるのは、とても嬉しいことだなあと感じた。

ウ 保健体育

- ・最近のスポーツニュースを定期テスト問題として出題することで、N I Eコーナーの新聞でスポーツ欄を熱心に閲覧している。
- ・保健学習において、福祉や衛生に関する記事を利用して、調べ学習や探求学習を行った。
- ・全国・九州大会等で活躍している地元の小・中・高校・大学・一般のチームや選手を取り上げ、2023かごしま国体や障がい者スポーツ大会を盛り上げていきたい。

エ 道徳

- ・3年生道徳教科書に掲載されている宇宙飛行士野口聡一さんの話を取り扱う際、「すくーる 373る」を使って「ブラックホール」の新聞記事を利用した。想像を越える宇宙の大きさや科学の進歩に驚き、主題である「感動、畏敬の念」を深めて学習することができた。

オ 総合的な学習

- ・横田慎太郎さん（鹿児島実業高校出身・元阪神タイガース選手・脳腫瘍闘病体験者）の人権教育講演会を行った。南日本新聞オセモコ欄に月1連載の「くじけない」の記事を利用して、講演会の前に事前学習した。横田さん本人が書かれた記事を講演前に読み込むことで、もっと聞きたいことや質問したいことが明らかになり、学びを更に深めることができた。（11月）



講演会前に新聞で事前学習を行った



横田慎太郎さん講演会

・人権学習（ジェンダー平等について・12月）

学習支援サイト「すくーる 373る」教師用機能を利用し、過去5年分の記事から「男女差別」「ジェンダー平等」をキーワード検索し、7つの記事を集め授業を行った。鹿児島県に関する最近の記事として「心の姿で友と卒業・西紫原中 2021年」「性別問わない制服広がる・財部中 2022年」「外国人が見た鹿児島は？ 2022年」を利用した。また「大相撲の土俵と女性問題 2018年」「東京医大、12年前から女性差別 2018年」など、デジタル新聞だから生徒たちが当時は意識していなかった4年前の記事を利用することができた。気になる記事に対し意見をまとめ、全体で発表した。参観授業だったので、保護者にも意見を述べてもらった。

<生徒の意見>

- * 性別は関係なく、合格は点数で決めるべきです。
- * 人の命を助けようと必死になっているのに「土俵から降りて」はおかしい。
- * 山田中学校でもスラックスを導入して欲しいという意見が出ている。導入すべき。
- * 「同性愛は精神の障害」と、国の重要なことを決める国会議員が言っているのは信じられない。
- * 「主人」「旦那」という言葉をつい使ってしまう。(保護者)

カ 社会科

- ・ 2022 年 7 月参議院議員選挙の機会をとらえて主権者教育を行った。昨年の衆議院議員選挙の際も行った。若者の投票率の低さや政治的無関心は、現実の世の中の動きを教材として学習することで解決していけると考える。新聞は主権者教育の絶好の教材である。新聞で各候補者の公約をじっくり読み比べ「わたしは〇〇の理由で△△さんに投票したい。」と意見を述べる事ができた。

<実際の投票結果を受けての生徒意見>

- * 自分が予測した候補者ではない人が実際は当選したが、選挙前に調べたことで、当選した議員らが公約を守っているか、しっかり見ていこうと思う。
- * 投票日は選挙結果が気になってテレビを見ていた。投票率の低さに驚いた。自分たちは棄権せず、必ず大切な一票を投じる大人になりたい。



公約を読み比べ、自分ならだれに投票するか考える



選挙公報を読み込む



3 人一組で記事内容と意見を発表

- ・ 政治・経済・社会面の記事を生徒自身が選び、要約と自分の意見を書き、3 人一組で 2 分間スピーチを行っている。記事の内容を声に出して人に伝えることで、読み手の理解力が向上している。自分で決めたテーマを追及するようになった生徒もいる。

3 終わりに

- ・ 来年度も本校は人権教育に重点を置くことになっている。新聞には、人権に関する話題は多い。新聞を利用した人権学習を意識的に行いたい。
- ・ すべての教科や学校活動に関連する記事が新聞の中にはある。これからも山田中学校全体で新聞活用にとりくみたい。

令和4年度 NIE 実践報告

奄美市立朝日中学校 国語科

1 はじめに

本校は、本年度から NIE 実践校として活動を始めた。それ以前にも南日本新聞のコラム「南風録」を書写し、感想を書くことを週末課題として継続して取り組んできた。令和2年度には南日本新聞社から講師をお招きし、当時の第2学年を対象に「よむのび教室」を行っていただいている。NIE 実践校としての本格的な活動は初年度であり、手探りの状況ではあるが、本校での本年度の活動を報告する。

2 目標

「読み取った情報をもとに自分の考えを発展させて、視野を広げる。」

私たちを取り巻く多くの情報の中から時と場合に合わせて最適な情報を取捨選択し、吟味し、分析・総合する力を身に付け、自分の考えを確立させたり視野を広げたりする力を養わせたい。

3 実践事例

(1) 新聞コーナーの設置

生徒がいつでも読める場所、生徒の往来が多い場所、そして生徒が一日に必ず通る場所として、生徒靴箱前に新聞コーナーを設置した。全国紙と地方紙を合わせて6紙を置き、生徒が閲覧できるようにした。

- ・ 3年生は入試前の面接練習に新聞記事で読んだ内容を取り入れた。
- ・ サッカーワールドカップや政策に関するニュース、大きな事件などについて時事的な情報をつかめた。
- ・ 登校の際に各紙の一面を見比べて、世論で一番大きな話題をすぐに把握できるようになった。



(2) コラムの書写

週末課題として南日本新聞の「南風録」の書写と感想を書かせる取組を今年度も継続した。

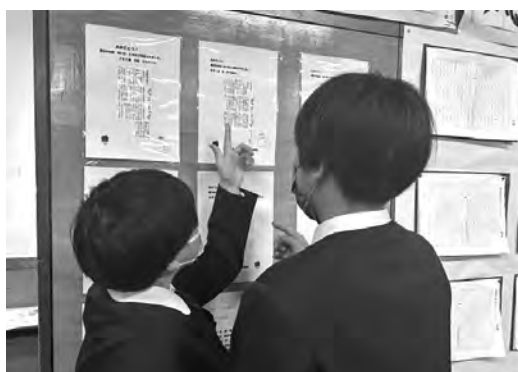
- ・ 慣用表現や新しい語彙に触れることで、表現が豊かになった。
- ・ 自分の考えに新しい視点や価値観を取り入れたり、視野を広げたりすることができた。
- ・ 時事的な話題に触れ、世間に対する興味や関心を喚起することができた。



(3) 新聞社への投稿

ア 南日本新聞の「若い目」に生徒の作品を投稿する。

- ・ 定期的に投稿することで、部活動面だけでなく文化的な活動としての話題になった。
- ・ 掲載された生徒やその内容に触発された生徒を中心に、表現力を向上させようとする姿が見られた。
- ・ 作文に関する授業や取組に生徒が前向きになってきた。



イ あまみ子ども読書・新聞応援プロジェクトへの作品の提供

地元紙の「奄美新聞」と「南海日日新聞」に、生徒の作品を二つずつ提供する。



(4) 新聞を取り入れた授業の実践

文章の構成や論理の展開，表現の仕方について学習した内容を生かしていくことを目標に，新聞のコラムを読んで文章表現や構成の工夫，根拠と主張の繋がりを確認しながら批評する活動を通して，効果的な表現の仕方を学んだ。

- ・ 6紙のコラムを比較することでそれぞれの文章の特徴を押さえ，良さや表現の違い，言葉の豊かさに気付くことができた。
- ・ 普段は進んで読むことのない難しい文章にも触れ，社会人になるために，高い教養や表現力を養う必要があることを理解できた。
- ・ 最も説得力のあるコラムを選ぶ活動を通して，根拠を明確にして自分の意見を伝え，発表に向けて協力して話し合うことができた。



4 研究の成果

- (1) 3年生は進路に向けた準備の一環で，時事問題を確認しに来る姿が見られた。
- (2) 地方紙と全国紙の一面を比較し，どの新聞がどのような視点で記事を書いているか，どのような違いがあるかなどに気付くことができ，自分の考えを深めたり広げたりすることができた。
- (3) 新聞を読むことで，自分も作文を投稿したいという意欲をもつ生徒が増えてきた。
- (4) 新聞から得た時事的な話題に関する知識を生かし，道徳や国語等の授業で発言したり感想を書いたりする生徒が増えてきた。
- (5) 国際情勢の変化や政策に関する情報など，自分を取り巻く環境や社会に関心を示し，将来や社会に対して自分の考えをもつようになってきた。

5 課題及び反省点

- (1) 生徒が新聞に興味・関心をもって読み続けるようになるためには，新聞の良さを伝える工夫をすることと，読むことを習慣化させることが重要である。授業や活動等での「しなければならない」場面では読むことができて，学校生活の中で日常的に読むこ

とは生徒個人の自主性に頼るところが大きかった。

- (2) 定期的に授業に取り入れることができなかった。
- (3) 学びの深化や教科横断的な学習のためにも、他教科でも新聞を取り入れた方が良い。

6 次年度に向けて

- (1) 1年生からの継続的な取組を推進し、新聞が身近なものであるという感覚を養う。
- (2) 有用な情報源として、新聞記事をより積極的に授業に取り入れる。
- (3) 「よむのび教室」を活用し、新聞の特徴や面白さ、有用性に気付かせる。
- (4) より系統的で実現可能な計画の立案と実践。

令和4年度N I E実践報告書

鹿児島県立錦江湾高等学校

1 目標

S N S等の普及により手軽に情報が発信され受信できる今，改めて情報の収集，分析及び文章化する技術の結晶である新聞に触れることで，リテラシー能力を育てるとともに，時事に目を向けて社会と自己との関連を見出させる。

また，新聞の情報をさらに発展させ，自分自身で調べ，まとめるという行為を通して視野を広げさせるとともに，課題の発見・解決といった探究能力を育成する。

2 実践内容

(1) 1学年でのスーパーサイエンスハイスクール学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」における活用

本校は，第Ⅳ期スーパーサイエンスハイスクール（S S H）の指定校であり，理数科及び普通科の全生徒が探究活動を行っている。特に普通科ではサイエンスに囚われずに，文系分野を含む多様な分野での探究活動が行われる。そのため，探究活動が始まる前の段階として，興味関心や視野を広げつつ信頼性の高い情報源に触れる契機と位置づけて，普通科のS S H学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」内で新聞を使用した。

ア 南日本新聞社に講師の派遣を依頼し，メディアとしての新聞について及び「まわしよみ新聞」の作り方についての講演を行った。



図1 講演会の様子



図2 昨年度の新聞ポスター発表を聴く

イ 南日本新聞社の講師からアドバイスをいただきながら，グループ単位で気になった新聞記事をA 2サイズの用紙に貼り付けて感想を書いた「まわしよみ新聞」を作成させた。



図3 グループで作成



図4 南日本新聞社の方も教室に入り指導

ウ グループはそのまま、「まわしよみ新聞」の中から記事を1つ選び、その内容について調査し深めた結果をまとめた、「新聞ポスター」を作成させた。

エ 各学級でポスター発表を行わせて代表を決定し、代表グループに学年全体で実施する「新聞ポスターコンテスト」で発表させた。外部からも審査員を呼び大賞他を決定した。



図5 コンテストでの発表の様子



図6 審査員からの質疑応答

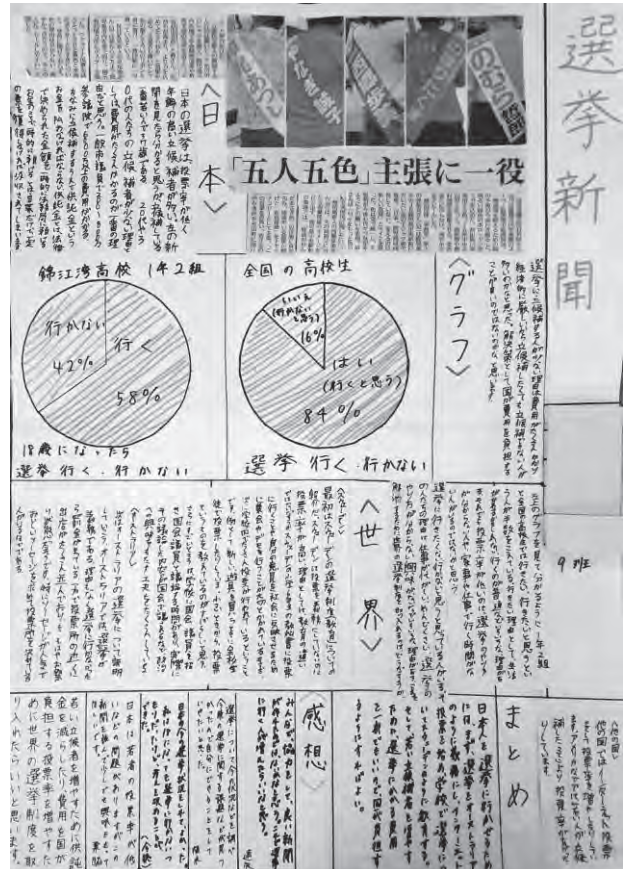


図7 最優秀賞受賞ポスター

(2) 「読解力トレーニング NIEの日」の実施

ア 週1回、朝のショートホームルーム前の15分間で実施した。

イ 全校生徒に新聞記事を与えて読ませ、気になった記述やキーワードに線を引かせた。

ウ ワークシートに取り組ませた。

(ア) 1学年は、教室に配備されたタブレットを用いて活動させた。気になったキーワード・事象などを、タブレットを用いてその場で調べさせ、分かったことや考えたこと、感想などをまとめさせた。

(イ) 2・3学年は、新聞記事に対しての感想を書かせた。

エ 生徒の自由な発想を重視し、記述内容の細かい指定は避けた。



図8 タブレットを用いた「NIEの日」実施の様子



図9 時事ネタに固執しない多様なネタ選び

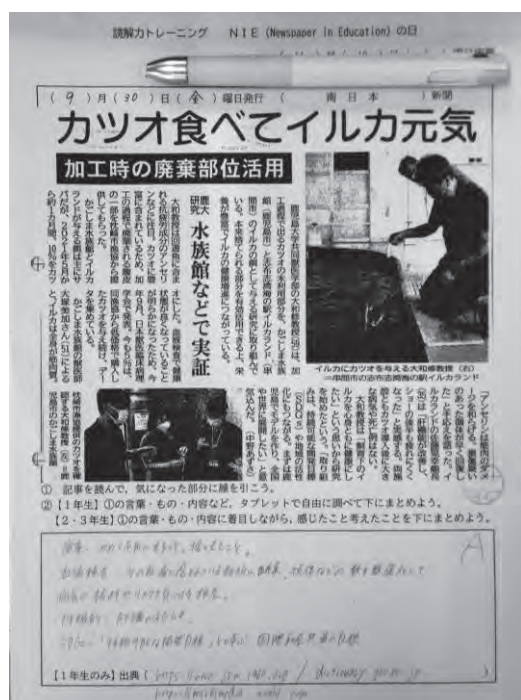


図10 1学年が実施したワークシート
気になった語句について調べてまとめ、“気づき”のきっかけにしている

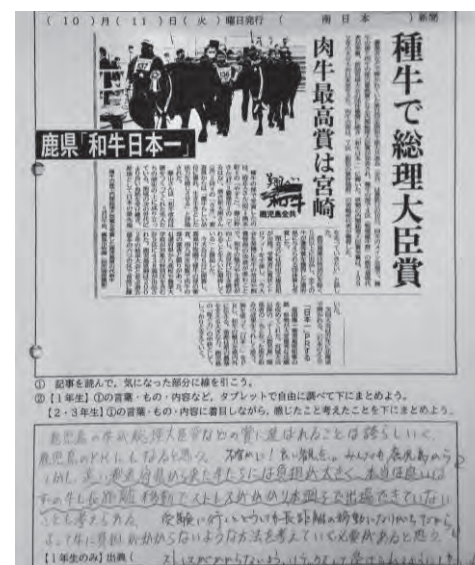


図11 素朴なコメントから生徒とのコミュニケーションが生まれることもあった
教員にコメントを強制しないことで負担感を持たせず楽しんで参加できることを狙った

(3) 新聞を手にとって読むことができる仕組み作り

配付される各紙を各学級に割り振り、これまで以上に物理的に生徒の近くに新聞を置くことで、誰でも簡単に手にとって読むことができる場の設定を計画していた。しかし、配付された新聞を上記(1)の「ロジックプログラム」内で普通科1学年が使用するようの方針を転換したため、各紙を全学年に割り振ることはできなかった。ただし、新聞を割り振られた普通科1学年では、身近にあるという状況から、自ら折に触れて新聞を手にする生徒の姿が見受けられた。

(4) 管理職を中心とした職員朝礼での切り抜き記事の配布

生徒の指導にあたるため、まずは教員自身が視野を広げたり、資質及び能力を向上させたりすることをねらい、ほぼ毎朝切り抜き記事を配布した。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 探究活動の始まりと位置づけて新聞を用いた活動を行うことを心がけた。先述の活動によって、生徒は2学期以降の探究活動において自由に探究のテーマ探しをすることができた。

イ 記事をまとめる際に、形式や内容を細かく指定しないことで、生徒は工夫して内容をまとめたり、自ら絵を描いたり、グラフや表にまとめたり、思いを熱く語ったりと、様々な形で“気づき”と思考を表現することができた。

ウ 「まわしよみ新聞づくり」を1学年の年度当初にグループで行うことで、記事に対して意見を交わし合う中で互いの思考が垣間見え、生徒同士の交友が深まった。特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため対面での学校行事も縮小される中で、生徒同士のアイスブレイク及びコミュニケーションの機会として大きな意義があった。

エ 「N I Eの日」で生徒が書いた感想や調べた内容に対して、教員が一言コメントを書いて返すことで、それをきっかけに生徒とのコミュニケーションが生まれる場面があった。

オ 昨今の教育問題や時事問題について教員の興味関心が高まり、生徒を指導するうえでの考え方やホームルームでの話題を作ることに役立てることができた。

(2) 課題

この活動を通して“気づく”力を身につけた1学年の生徒が、次年度探究のテーマが決まり、研究をしていくなかで、どれだけその力を活かすことができるのか注視していく必要がある。

令和4年度N I E年間実践報告

鹿児島県立野田女子高等学校

教諭 西菌義和

1 目標

現代社会にける様々な情報を新聞を通して得ることで、政治や経済、地域の様子や世界情勢などを知る。また、現代社会における様々な情報を主体的・客観的に読み取る力を身に付け、正しい情報を選択し、正しい行動ができる態度を身に付ける。

2 生徒の実態

各学年3クラス(3学科)の女子の生徒である。自宅で新聞を購読している生徒はほとんどいない。そのためニュース等はインターネットから情報を得ているようであるが、政治や経済なども含めた時事問題にはほとんど関心のない生徒が多いように思われる。図書室にある新聞を閲覧する生徒も少ない。しかし、教師側がニュースや新聞記事を紹介するといろいろと発言したりする生徒もあり、ニュースや記事によっては関心を示す。

3 実践報告

(1)「コラムを読む」の取り組み

本校では、生徒の読解力や理解力の向上、ニュースなどの時事を知るために2～3週間に1回程度SHRを利用してコラムの時間を設定している。コラムの内容は進路指導部と3学年の職員が精選し、また、生徒がコラムの内容を理解しやすいように質問を設定し文章の要約や自分の考えをまとめる活動を行う。他者の意見も知るために、数名の生徒の感想等も紹介する。下記は取り上げたコラムの題名と質問に対する生徒の感想である。

(コラムの題材例)

テーマ	引用
ロシアのウクライナ侵攻について	朝日新聞「天声人語」2022.04.09
「デジタル弱者」	南日本新聞「南風録」2022.07.06
梨泰院の雑踏事故について	毎日新聞「余録」2022.11.01

(質問例と生徒の感想等)(コラム題：ロシアのウクライナ侵攻について)

質問例：ロシアの人々はなぜ、ロシア軍のウクライナでの行動を8割超が「支持」していると思いますか。

生徒感想：ロシア国内のメディアがロシア軍をよく映すようにしか報道せず、戦争を起こして正しいと信じさせようとしているから。（3年）

- ・ロシアの人々の中で、「支持しない」という意見により自分や大切な人たちを守ることができないと感じているのではないかと思います。（3年）

質問例：偽のニュースにだまされないためにどんなことに気をつけたら良いと思いますか。

生徒感想：他の情報と比較したり、自分で調べたりしてすぐに情報を鵜呑みにしないようにしたい。（1年）

- ・日頃から SNS で情報を得ているが、時々偽の情報が流れてくることがある。その情報だけを鵜呑みにせず詳しく調べることが大切だと思う。また、偽の情報を広めている人を少なくするために通報することも良いと思う。（3年）

(配布プリント)

(表面)

新聞のコラムを読もう！ 第1回（令和4年5月6日）

（ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

天声人語 <2022.04.09 朝日新聞>

「ロシア軍のウクライナでの行動を支持しますか」。先週発表されたロシアの世論調査を見て驚いた。8割超が「支持」。どこまで実情を映した調査かはさておき。やはり理解しがたい。

•わけを知らず、ロシアの報道サイトを一通り。戦果を誇らしげに報じる大衆紙コムソモリスカヤ・プラウダでは、戦況図に目にとまった「ロシア軍が進軍した地域」が、日本の各紙でみる地図の何倍も広いのだ。•国営（ロシア）テレビは、負傷したウクライナ市民をロシア兵が救助したと報じた。市民らはロシアに「助けられた」「ロシア軍は希望だ」。

•最も驚いたのは、民間人虐殺で世界の批判が集まるブチャからの報道ぶり。放擲された遺体を映して「突然手を動かした」「こちらら起き上がろうとした」。国防省（ロシア）は「写真や映像は西側向けにウクライナが用意した」。要はでっち上げといいたらしい。

•報道規制下にあるロシアの人々は、国家の言い分を信じ切っているのか。それとも疑いつつ、信じたい自国像をみているのか。先の世論調査で、ロシア軍の行動を「支持しない」人はわずか14%にとどまった。

① ロシアの人々はなぜ、ロシア軍のウクライナでの行動を8割超が「支持」していると思いますか。

② 偽のニュースにだまされないためにどんなことに気をつけたら良いと思いますか。

*SHR後に回収します。

(裏面)

前回のコラムより(一部抜粋)

< 朝日新聞 2022.04.09 >

① ロシアの人々はなぜ、ロシア軍のウクライナでの行動を8割超が「支持」していると思いますか。

- ・テレビやインターネットでロシアの人々がいいことをしているように報道しているから。(1年)
- ・ロシアの人々は、ロシアにとって都合の良い情報しか与えられず、ウクライナがどのような状況なのか正しく理解できていないから。(1年)
- ・ロシアの人々にとってロシア軍は、ウクライナの人々を助けていると思っているから。(1年)
- ・ロシア軍の行動は間違っていると思ってもロシア軍を支持している人が多いため、支持しないという声をあげにくいのだと思う。(2年)
- ・ロシア国内のメディアがロシア軍をよく映すようにしか報道せず、戦争を起こして正しいと信じさせようとしているから。(2年)
- ・自国が行っていることが正しいと思っている人が多いのだと思う。(3年)
- ・自国軍の言い分だけ耳を傾け、その言い分自体が美化されているのではないかと思う。(3年)
- ・ロシアの人々の中で、「支持しない」という意見により自分や大切な人たちを守ることができないと感じているのではないかと思った。(専2)
- ・ロシアの人々は、ただ負傷しているウクライナ市民を助けるといった場面しかみておらず、実際にロシア軍がウクライナに對している様々なことには目を向けていないため「支持」が多いのだと思う。(専2)

② 偽のニュースにだまされないためにどんなことに気をつけたら良いと思いますか。

- ・他の情報と比較したり、自分で調べたりしてすぐに情報を鰻呑みにしないようにしたい。(1年)
- ・本当にそのニュースが正しいのかしっかり考えて見ることが大切だと思う。(1年)
- ・ニュースを見るときに必ずしもその情報が全部正しいとは考えないよう気を付けたら良いと思う。(2年)
- ・1つの情報だけでなくいろいろな視点から周りの意見や考えを取り入れ、たくさんの情報を見て考え、判断していきたいと思う。(2年)
- ・自分の目で確かめるのが最も良い所ではあるが、できない場合がほとんどなのでそのニュースを疑うという視点で考えていけば良いと考える。(3年)
- ・日頃から SNS で情報を得ているが、時々偽の情報が流れてくることがある。その情報だけを鰻呑みにせず詳しく調べるのが大切だと思う。また、偽の情報を広めている人を少なくするために通報することも良いと思う。(3年)
- ・日頃から情報を常に把握しておく必要があると考える。誰かが言っていたからではなく自分の目で見て耳で聞いたことからそれが本当かしっかり考えられるようにすると良いと思う。(専2)

(成果と課題)

ほとんどの生徒は作業に真面目に取り組み、内容を良く理解し、質問にも的確に答えていた。また、さまざまな記事から時事的な問題にも興味を持ち、そのことに関係するニュースにも興味を持つようになった。しかし、中には、コラムの内容を理解せずに感想等を記入したり、記事から読み取れないような感想を記入してあるものもみられた。今後は、新聞をきちんと読める力の定着と、新聞やニュースなどを授業や授業以外でも生徒に紹介し、時事問題に興味関心を持ち、自分の考えをしっかりとまとめられるように指導をしたい。

(2)「新聞を読もう、新聞コンクール」への取り組み

本校では、新聞コンクールへの参加が今年で4回目となる。新聞コンクールは新聞を切

り取り添付するのだが、本校の生徒は新聞を購読している家庭が少なく、新聞を準備することが難しい。そのため、本年度は本校の職員が自宅で購読している新聞を提供してもらい、そこから新聞記事を選ぶようにした。生徒たちは選んだ新聞を集中して読む姿がみられ、一生懸命記事を探す様子もみられた。ただし、自分の興味ある記事を一つの新聞から探すことは難しく、妥協して記事を選ぶ生徒もいたので、来年度はできるだけ興味関心のある記事でコンクールに提出する原稿を作成させたいと考えている。今後もこの活動を通じて新聞が紙面を通じて様々な情報を提供していることを認識し、新聞を読む習慣を身に付けてもらいたいと考える。



(新聞を読む生徒の様子)

(3) 授業等における新聞の活用(新聞記事の比較)

同じニュースの記事を異なる新聞社で複数準備し、それぞれを読んだ感想をグループ内で発表させた。それぞれの記事を読むことで受け取り側の考えが異なることが理解でき、複数の記事を読むことで、そのニュースの何が大事な情報なのかを得ることができることを理解した。タブレットを活用し、インターネットでの情報も合わせて読むことで、更に情報の真意が読めると感じた生徒もいた。

4 活動を通して

本校の生徒の新聞を読まない、新聞を購読していない家庭が多いことに驚き、どうすれば新聞の面白さに気付いてもらえるかを考えた一年であった。朝の SHR や授業で新聞を持参し新聞の一面の記事を紹介したりもしたが、興味や関心を示す生徒は少なかったと思う。ただし、学年が上がるにつれ、時事問題には興味関心を示す生徒が増えたように思われた。来年度は新聞記事をコラムの時間以外にも多く紹介し、生徒たちが新聞にふれる機会を増やし、多くのニュースがあふれる現代社会でどうすれば正しい情報を得ることができるのかを学ぶ機会を増やしていきたいと思う。

令和4年度 NIE 実践報告書

鹿児島県立楠隼高等学校

1 はじめに

本校は平成27年に開校した全寮制の中高一貫の男子校である。開校以来、校内はもちろん寮内においても携帯電話・スマートフォンの持込みが禁止されている。その一方で、校内の全教室分と、寮内の全フロア分に新聞を2紙(南日本新聞と朝日新聞)、図書館に5紙(前記に加え、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞)を用意しており、生徒たちにとって新聞は重要な情報源となっている。寮内やクラスでも新聞を読む生徒が多く、社会への興味関心が高い。

2 本年度の実践内容

(1)新聞記事の掲示

昨年度は、地歴科職員中心に新聞の掲示を行い、社会的事象に関して、生徒の興味関心を高めるよう工夫して掲示を行ったが、今年度はより多くの教員の視点から、新聞記事の掲示を行ってもらうために、他教科・科目の視点から記事の選定を行ってもらった。



- ・ 本校は JAXA と提携し、独自に「宇宙学」を実施しており、入学段階で宇宙に興味を持つ生徒も多い。
- ・ この点から、中学理科教員の協力を得て、宇宙に関する記事を掲示するコーナーを設けた。

(2)総合的な学習「肝付学」での活用

本校の特徴として、全国から生徒が入学している点がある。そこで、総合的な探究の時間に、大隅地域の特徴や抱える課題を見いだし、解決策等を探究していく活動を行っている。生徒は、自らが興味を持った周辺地域の情報を基に、実際に現地へ赴きフィールドワークを行うことになるが、情報を得るための手段として、1時間は地域紙である南日本新聞、もう1時間はインターネット検索を活用する形を取り、両メディアを生徒たちが比較するきっかけを得られるように工夫した。

生徒は、寮生活の中でインターネットを活用する機会があまりないが、基本的にデジタルネイティブ世代であり、新聞よりもインターネット検索の方が身近と感じる生徒がほとんどであった。

しかし、具体的なワードを入れなければ検索に引っかからないインターネットよりも、紙面から記事を拾い上げる新聞の方がかえって面白い情報を見つけることができることに気付いた生徒も多く、両メディアを比較させたことで新聞の利点を見いだすことができた。

(3)地歴科の授業での活用

昨年度は公民(現代社会)での活用が中心であったが、教育課程の改訂で、本年度は本校で公民科目を開講していないため、地理歴史(世界史、日本史、地理)での活用を中心とした。

昨年度と同じく、教科内容に関する記事を取り上げたり、読んだ上で意見を書かせたりする活動を行った。特に、今年度からは、日本史・世界史の垣根をなくし、近現代史を中心に扱う歴史総合が新科目としてスタートしたことも受けて、「歴史と現代のつながり」を意識させるような記事を積極的に取り扱った。

第5章：帝国主義の成立と列強の情勢（追加プリント）



韓国における日本統治時代の徴用工問題について、アフリカにおける欧米の植民地支配の精算を取り上げながら、日本がどう向き合うべきかを取り上げた記事。帝国主義と各地での抵抗運動に関する内容に関連付けて取り上げた。

問1 石炭産業は、なぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。

問2 問1の答えを基に、日本はなぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。

問3 問2の答えを基に、日本はなぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。

問4 問3の答えを基に、日本はなぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。

問5 問4の答えを基に、日本はなぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。

問6 問5の答えを基に、日本はなぜ、―――と述べているか。文中の表現を利用して答えなさい。



生徒は現代の世界を「自分事」として考える上で、歴史が現代にどのような影響を与えているか、また歴史を基にこれからの世界はどうあるべきかなど、多くの知見や考えるきっかけを得ることができたようである。

地理分野では、エネルギー問題などを中心に記事を取り上げた。地理は、防災や人口問題なども含め、生徒にとって日常を感じやすい内容が多く、生徒により深く実態を考察させる上で、授業における新聞活用の利点をより一層感じた。

脱炭素が推進される一方で、再稼働が進む原発の安全性の問題を、より深めるため記事を活用した。

危機前面に原発回帰



(4) LHR での活用

1つのテーマに関する記事を2人1組で選び、それぞれが意見を書き合うという活動を行った。「互いに少しでも違った立場から意見を書く」ことを条件として、柔軟に物事の見方考え方を養うことを目的とした。



共通テストで、試験官のミスによる再試験について、試験官側の不備を指摘する視点と、受験者としての様々な状況に備える準備の重要性の二つの視点から意見が出された。



「ペア」という形を取ったことで、生徒は人任せにせず自分の意見を出すことが必要となり、生徒の対話を促す授業として成立させることができた。最後に、記事をクラスで発表、掲示させ共有したことで、より一層、異なる視点を前提にして情報を考えることの重要性に気付かせることができた。

3 終わりに



4年間の NIE 実践を経て、職員・生徒共に新聞のメディアとしての力や可能性を改めて実感することができた。なかには、日頃の活動の中から学んだことを生かし、また、「情報を得るきっかけとしての新聞」に可能性を感じて、自ら新聞を発行することに挑戦する生徒も現れた。

(宇宙部という全国的にも珍しい部の活動の一環として、「宇宙をより身近に感じて欲しい」との思いから、関連するニュースを定期的にまとめ定期的に新聞を発行している。)

インターネットの活用が急速に拡大する現代社会において、発行部数の大幅な減少などメディアとしての新聞は難しい局面にあるが、テレビの登場後も、ラジオがその強みを生かして生き残っているように、新聞には新聞としてのメディアの特性、可能性がある。それを大事にしながら、授業や、そこにとどまらない学校全体での活用に向けて今後も取り組んでいきたい。

令和4年度 N I E 実践報告 れいめい中学校・高等学校

報告者：れいめい高等学校 荒田 邦子

1. はじめに

本校は、中高一貫校である。令和2年度よりN I E 実践校となっている。特に、普通科キャリアアップコースにおける取り組みについて実践を継続しながら、中学校においても「夢発見プロジェクト」として「まわし読み新聞」の作成などの実践をしている。

2. 令和4年度 実践項目

- ① 1日1記事（ワークシートの活用）
- ② 中学校における実践（まわし読み新聞・英字新聞の活用）
- ③ 若い目への投稿

3. 実践事例

- ① 1日1記事（ワークシートの活用）

(1) 社会面記事

[実践期間] R4年4月～12月

[対象] 普通科3年A組（21名）

[実践内容]

新聞記事の気になる数字やキーワードを生徒にピックアップさせて、記事を書いた人の意図を考えさせたり、要点をまとめたりさせる。

[生徒の感想]

「円安」「SDGs」など授業で学習した項目について、生きた情報を得ることができ、身近なものに捉えることができた等

[成果]

社会の諸課題について関心をもつきっかけになる
総合型選抜や推薦入試の面接や小論文のネタになる

(2) 南風録

[実践期間] 10ヶ月（4月から現在）

[対象] 普通科1年A組（43名）

[実践内容]

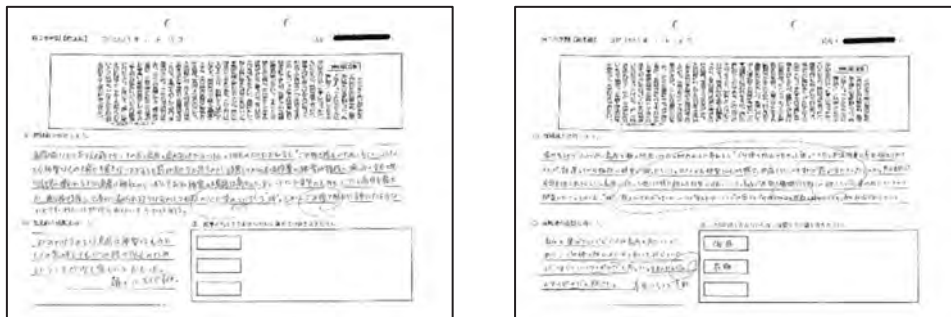
毎日南風録を読んで、その内容を要約をし、感想を書く。

[生徒の感想]

- 南風録を読むことで普段気にしていなかったことを意識するようになった。
- 社会で起こっていることを知ることが出来た。
- 文章を書くのが上手になってきた。

[成果]

文章を書く力がついてきている。文章に何が書かれているか要点をおさえることができるようになった。



②中学校における実践（まわし読み新聞・英字新聞の活用）

（１）まわし読み新聞の作成

[実践期間及び対象学年]

国語（中１）：Ｒ４年７月（全５時間）

れいめい学（中１・２）：１学期（全６時間）

※れいめい学は中１・２年縦割りで実施している授業で、主要５教科の中から自分が学びたい科目を選択している。

[実践内容]

第１学年の国語、れいめい学の時間においてまわし読み新聞の活動を行った。まず、興味のある新聞記事を１人３つ選び、選んだ記事を持ち寄ってグループで新聞づくりを行った。各自が選んだ記事について、グループ内で紹介し合い、新聞としてまとめる記事を選んだ。新聞完成後は、まわしよみ新聞発表会を行い、感想を伝え合った。

[生徒の感想]

新聞を完成させるのは少し大変でした。なぜなら、まず新聞名が決まらなかったからです。だから新聞を作るのもかなり大変なんだと思いました。これからも新聞をグループで作ることがあると思うのでその時は力を合わせて作りたいと思いました。

[成果]

○自分が気になる記事を紹介し合うことで、相手がどのようなことに興味を持っているのか、価値観を知ることができた。また同じ記事を選んでいても、捉え方や感想に違いがあり、視野を広げることができた。

○選ぶ記事について制約は設けなかったが、「スポーツに関する記事でまとめたい」など、新聞の方向性について話し合っているグループもあった。グループとしての新聞の方向性と、個人が紹介したい記事の内容とが異なり、意見がぶつかり合うこともあったが、意見の異なる相手が納得できるように話したり、折衷案を考えたりするなど工夫して作業を進めていた。自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見を受け入れることを学ぶ、よい機会にもなったと感じる。



(2) 英字新聞の活用

[実践期間] R 5 年 1 月

[対象] 中学校 3 年

[実践内容]

英字新聞 (JAPAN TIMES) から各自が記事を選び、ペアあるいはグループで見出しから記事の内容を考え、改めて日本語の見出しを付ける。それと同時に、内容について簡単に説明する。

[生徒の感想]

- ・単純な単語の日本語訳とは違う意味で使われている場合があることに驚いた。
- ・学校で習う文法とは違う感じで楽しかった。新聞特有の表現の仕方があり、とてもおもしろかった。
- ・まだまだ全然知らない単語が多くて、もっとちゃんと知って、すらすら読んでみたいと思った。
- ・英語は直訳するとごちゃごちゃな日本語になるので、それを伝えようとするのが難しかった。新聞の言いたいことを理解しないといけないと思った。

[成果]

本や新聞を読む機会が減っている＝活字に触れる機会が減っている子供たちに、英字新聞を読むことで英語と日本語の両方を考える機会が与えられると思い、授業で扱うことにした。

子供たちは、まず写真と見出しから記事の内容を想像し、そのあとに本文に目を通して内容を理解しようとする姿があった。単語の意味を調べたり翻訳機能を使って訳したりするなかで、直訳では理解できない文章になると「これはどんなことを伝えたいのか」「どんな文章にすれば相手に伝わるのか」などを考えるようになっていた。英語⇒日本語への転換の難しさを感じているようだった。しかし、そこが今回の活動のポイントとなり、英語と日本語の両方について考えるチャンスになった。

文法を無視した英語の見出しや、自分たちの想像を超えた意味を持つ単語との出会いがことばの面白さや表現する難しさを改めて実感させたことであろう。

新聞記事の内容と子供たちの英語力の差に不安な点はあったが、授業で英字新聞を扱ったことは子どもたちの興味・関心を引き出したり、ことばについて考えさせたりするよいきっかけになったと思う。教員自身も普段からことば（活字）に触れる機会を増やし情報を持つことで、記事を題材に教科横断型の授業に展開してみたいと思った。



③若い目への投稿

〔実践期間〕 通年

〔対象〕 全校生徒

〔実践内容〕

毎月の投稿は実践できなかったが、授業において作文指導を行ない、その成果を投稿という形で行なっている。

〔成果〕

工学科の生徒の投稿が掲載された。掲載されたことで、それまで文章を書くことに苦手意識を持っていた生徒が自信を持つことができた。また、それ以外のことにも積極的に関わることができるようになった。

4. おわりに

今年度当初は、図書室に NIE コーナーを設けてより多くの生徒が新聞学習に取り組める環境作りを行なう予定であったが、実現することができなかった。

しかし、実践校となって3年目ということもあり、総合学習、国語、社会、英語と活用の幅が広がっていると感じている。今後、中学校において国際バカロレア（IB）候補校としての取り組みが進んでいく中で、より多くの教科において、新しい情報、地域情報、あるいは国際情勢、歴史的な視点など、多様な情報が必要となることが見込まれる。書籍資料では追いつけないほど変化が加速する中で、いかに新聞を活用することができるかということも、生徒たちにとっての強みとなっていくと感じる。

ますます NIE の取り組みに対する期待も大きくなっていくだろう。

鹿児島県立鹿児島聾学校

本校は鹿児島市下伊敷に所在する、県内唯一の聴覚障害教育を専門とする特別支援学校である。本年度は幼稚部１５人、小学部１２人、中学部１０人、高等部７人の計４４人が在籍している。また、０歳児からを対象とする乳幼児教育相談やきこえの相談、通級指導教室など聴覚障害教育に関するセンター的機能も担っている。

2 本年度の実践内容

- ① 学校玄関に新聞閲覧コーナーを設置（高等部産業工芸科の実習で閲覧台製作中）。
- ② 閲覧終了後の購読４紙を各学部へ分配し自由に活用。

① 学部毎に学部全体で取り組む授業（学習活動）の実践

② 各学部内で互いの授業を参観し授業研究を行う。

以下に研修の流れ（PDCA）の例を示す。

イ 授業提供者が授業実践計画シートを作成し、その授業を動画で撮影。

[illegible]

ウ 授業動画を視聴。参観者はその場の質疑応答と併せて「参観シート」に気付いたことを記入し、授業提供者に返す。(授業研究)

エ 「参観シート」の記述と反省等から授業提供者は「ふりかえりシート」を記入し学部内で共有。

C 授業参観シート ～参観者が記入～

生徒が言語能力を活用していた場面
・メモを使いインタビューの発表
・他教科とのつながり
・インタビューしたことを記事にまとめる。

生徒が思考力を発揮していた場面
・新聞の構成を知る。

参考になった手立て等
・グループディスカッションで意見を話し合う。
・個々のできることに応じた役割分担。

感想等
・ほとんど声をかけているところが分かりにくかったので工夫があったらよかった。(時間を確保して発表、事前意見交換の場を作るなど)
・やりとりが見えにくい。
・取材の様子があると分かりやすい。
・出た意見を板書とか共通確認する場がほしい。
・日頃授業を見る機会がなかったため生徒との関わり方や授業の雰囲気分かりよかった。

A ふりかえりシート ～授業提供者が記入～

気付いたこと、課題点
・実態差がある集団の課題設定をどうするか。
・生徒の話し合い、思考、表現の活動に教師がどのように介入していくか。

改善点
・課題は共通だが、目標の設定、支援の方法、評価の基準を個別に設定して授業を行う。
・生徒同士の教え合い、学び合いを促す言葉掛け、生徒の自発的な思考、表現を後押しするような働きかけを意識する。

オ ア～オを各学部内で輪番で実施。

カ 各学部の実践例等を全体へ報告し共有(研修のまとめ)。

3 実践の実際

(1) 幼稚部の取組例(幼稚部全体) 「親子で新聞を読もう」

- ① 学習の流れ ※ 幼稚部では保護者が付き添って授業が行われている
- ・ 幼児が興味をもてそうな新聞記事(動植物など生き物、ニュースなどで話題の記事)を選び廊下に掲示(掲示期間は2週間)。
 - ・ 子供と保護者が新聞記事を見る中で、子供の気付きや発した言葉(非言語的な身振り等も含む)を付箋に書いて貼ってもらう(他の親子の付箋も話題にする)。
- ② 学習のポイント
- 第1期: 生き物等の記事を掲示、幼児の発言や気付きを付箋に書くようにした。
- 第2期: 記事の幅を広げながら、より細部に注目できるように質問形式にしたり、見てほしいところが分かるようなヒントを提示したりした。



(2) 小学部の取組例（小学部全体） 「新聞の時間」

① 学習の概要

文章読解の問題として新聞記事を活用。上学年・下学年の2グループに分け、月に一度「新聞の時間」として新聞記事を読む時間を設定した。

目標：新聞を読み、記事の内容を理解することができる。（全体）

記事を読み、記事に関する質問に答えることができる。（個人）

② 学習活動

- ・ 内容毎のまとまりに小分け（100字程度）に提示した新聞記事を読む。
- ・ 新聞記事に関する質問に答える。
- ・ 新聞記事を読んで考えたことを友達と話す。
- ・ 新聞記事に関連する話題について、タブレットで調べ学習をする。

まずは、ここを読んでみよう。

集中して読めるよう、新聞記事を小分けして提示 (PPのスライドを活用)

記事に関する問題に挑戦

(3) 中学部の取組例（中学部全体） 「創立120周年新聞～中学部版～」の制作

① 学習の概要

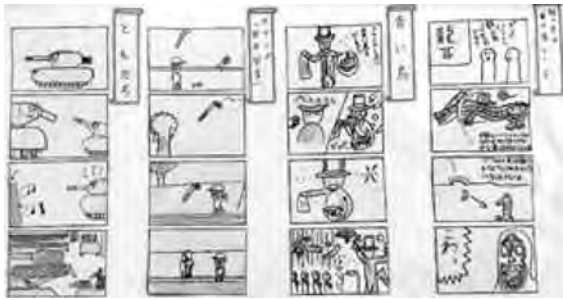
鹿児島聾学校創立120周年を祝して、中学部生全員で記事を分担し記念新聞の制作に取り組んだ。文献や資料を参考に文章やマンガを書いたり、卒業生にコメントを依頼したりして1枚の新聞にまとめ、校内作品展や廊下の掲示板に展示した。

全体目標：担当した記事について文献等を使って調べ、まとめることができる。

伝えたい内容を文章にして、指定箇所に丁寧に表記することができる。

② 制作した記念新聞





(4) 高等部の取組例（３年） 公民科（現代社会）の授業における新聞活用

① 学習の概要

金融・国際経済分野の授業で、記事本文や記事中の図表から読み取ったことを書記言語化する課題、記事の内容が自分の就職予定企業や業界に与える影響について、記事記述を参考に、必要な情報を収集・整理しながら自身の考えを加えて書記言語化する課題に取り組んだ。

目標：為替相場や金融政策に関する知識を基に新聞記事を読み取ると共に、円安の影響について収集した情報と自身の考えを文章化することができる。

② 学習活動

- ・ 新聞記事を読む＋内容等に関する質問や補足説明。
- ・ 記事本文や記事中の図表を読み取り問に答える。
- ・ 記事内容は就職予定の企業や業界にどのような影響を及ぼすか調べる。
- ・ 調べた内容や考えをまとめる（図にまとめる→箇条書き→文章にまとめる）。
- ・ まとめた内容を発表＋他者の発表と自身の発表を比較しながら感想を書く。

[illegible][illegible][illegible]

4 まとめ

言語能力や思考力を高めることをねらいとする授業を実践するには、新聞の活用が有効であることが各学部で確認できたようである。前年度は校内における縦（幼→高）の発達の視点を共有することを目指したが、今年度は学部毎に横の発達（同じような年齢集団）を意識した有効な授業等の在り方を探ることができたものとする。このことは言語能力や思考力の向上に資するだけでなく、新学習指導要領に示された「深い学び」を実現するための手掛かりともなり得るものであった。

鹿児島県新聞活用教育（N I E）推進協議会会則

1 9 9 5 年（平成 7 年）	4 月実施
1 9 9 8 年（平成 1 0 年）	5 月改定
2 0 0 4 年（平成 1 6 年）	5 月改定
2 0 1 6 年（平成 2 8 年）	5 月改定

第 1 条（名称）本会は鹿児島県新聞活用教育（N I E＝Newspaper In Education 教育に新聞を）推進協議会と称する。（略称・鹿児島県N I E推進協議会）

第 2 条（目的）本会は教育界と新聞界が協力、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して、教育内容を豊かにするとともに情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。

第 3 条（事業）本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- ①N I E実践研究会委嘱校、委嘱者の選定
- ②N I E実践研究委嘱校、委嘱者への研究補助
- ③N I Eに関する研究会等の開催および研究成果の紹介や普及
- ④その他、本会の目的達成上、必要と認めた事項

第 4 条）第 1 項（組織） 本会は次に掲げる委員で構成する。

- ①鹿児島県内の学識経験者
- ②鹿児島県の教育委員会関係者
- ③市町村教委、校長会、私学団体
- ④実践校代表
- ⑤在鹿の日本新聞協会加盟者代表（朝日、毎日、読売、西日本、日経、南日本、南海日日、共同通信、時事通信）、

第 2 項（任期） 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

第 6 条（役員）①本会には会長 1 名、副会長 3 名、監事 2 名を置く

- ②会長は協議会を代表し、会務を統括する。
- ③副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときはその職務を代行する
- ④監事は会計監査を行う。

第 7 条（運営） 1 項 本会は次期計画その他運営に関する重要な事項を決定するため、毎年 1 回定期総会を開くほか、事業状況報告などのための臨時会を開催する

2 項 総会は会長が招集し、その議長となる。

第 8 条（経費） 本会の運営に関する経費は、参加する新聞・通信社の拠出金および個人、団体等からの補助金その他の収入をあてる。

第 9 条（事務局） 本会事務局は南日本新聞社読者センターに置く。

第 1 0 条（事業年度） 本会の事業年度は毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 3 1 日に終了するものとする。

第 1 1 条（補則） この会則に定めるもののほか本会に必要な事項は別に定める。

※付則 この会則は 2 0 1 6 年（平成 2 8 年） 4 月から実施する。

発 行

(2023年2月20日)

鹿児島県N I E推進協議会

[事務局]

〒890-8603 鹿児島市与次郎1-9-33

南日本新聞社内

電 話 099 (813) 5168

F A X 099 (813) 5017

E-mail : nie-kago@373news.com

URL https://s1.373news.com/k_nie
